

社会新報

社会民主党全国連合機関誌宣伝局

〒100-9809 東京都千代田区永田町1-8-1

発行(印刷日除く) 定価180円 1ヵ月 700円 送料180円

号外三春版 2011年6月

東日本大地震災害

救援募金にご協力を!

振込金融機関 中央労働金庫 鹿が岡支店

口座名 社会民主党救援基金

普通口座 1543988

佐藤弘議員 校庭の表土除去など除染対策を強く要請 三春町 すべての学校・幼稚園など 教育施設の表土除去を決定!!

5月13日、佐藤弘議員は、三春町長と面会し、子供たちを放射線障害から守るため、校庭の表土を除去し、強く要請。此後、検討を急務し、6月2日に、町内すべての学校、幼稚園、保育所、児童公園の表土を除去することを決定しました。

花壇・プール・校庭・砂場 側溝など徹底した環境浄化

三春町は、6月2日の町議会全員協議会において、「子供たちの受ける放射線量を1/10に、いなくするため、町内の各学校、幼稚園、保育所の全施設について、校庭の表土除去をはじめ、校地内のできるかぎりの除染対策を行う」と発表しました。

さらに、「子供たちを24時間、365日、生活し続けるものとして、校庭、プール、砂場、遊具、体育用具、花壇、排水側溝の花など、校舎周り、校庭周り、桶のない玉石、U字溝、ドレン破りに目配り、徹底した環境浄化対策を行う」具体的な方法として、「表土の校地外への搬出は現在のことろ不可能なので、校地内での処理を前提に、次の方法で実施する。」

- ① 校庭内の遊具の洗浄を行う。
- ② 校庭内の表土を5cm除去する。
- ③ 除去した表土を埋設するため、必要な掘削を行う。
- ④ 除去した表土等を掘削場所へ遮水シートを敷設の上、埋戻し、30cmの上を覆う。
- ⑤ 掘削しおいた表土より5cm深い位置の上、校庭に敷き、掘削ロー等による締固めを行い、除去した表土の埋設場所は、各学校と協議の上適切な場所を決定し、放射線量測定を実施する等の方針を決定しました。

暑さ対策として教室への扇風機と

保健室へエアコン設置

また、今後の暑さ対策として、各級に扇風機、保健室にエアコンを設置し、さらに、学校ハウスメアの配置や、環境放射線測定装置の設置が計画されました。

低線量でも重大な健康被害

甲状腺など、子供たちの

長期的な定期検査を!!

佐藤弘議員は、さらに、子供たちの健康を守るため、「放射能による健康への影響は、子供たちに比べて非常に深刻な問題だ。校庭の表土を削ったり、屋外での活動を制限して、放射線物質を完全に除去し、除くことはできない。」

子供たちは、常に低線量でも、放射線をたえず受け続けている。放射線物質を吸いこんだり、飲料水や食べ物がからも、微量であっても、体内に入ること避けてはならない。

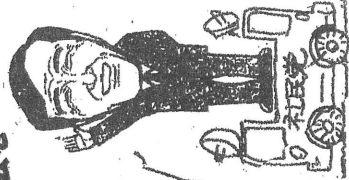
たとえ、低レベルであっても、このような状況が長く続けば、子供たちの放射線による健康被害は重大な影響を及ぼす。

子供たちのスクリーニング検査、及び、甲状腺検査を中心とした長期的な健康モニタリングと、定期的な健康診断は必要不可欠」と、子供たちの放射線被害に関わる長期的、定期的健康診断の実施を、国や県関係機関に強く訴えかけるよう訴えています。

安心して暮らせる社会を

街の声を町政に

何でも相談



被災者や原発のことを考えろ

国会は何をやっているのか

原発とちのけの権力闘争

三春町議会議員 佐藤 弘

恐ろしい内部被曝 体内に蓄積し細胞を破壊

「甲状腺にはヨウ素が、肺にはアルミニウム、肝臓にはコバルトが
原発事故から3ヶ月、今なお放射性生物質の放出が続いており、大空中に
まき散らされた放射線は、健康を自然に破壊し続けています。」

低レベル放射線でも健康に重大な影響

琉球大学の矢野教授や中部大学の武田教授は、「体内に放射性生物質がとり
まわると、様々な部分に蓄積し、長期にわたる放射線を出し続け細胞を破壊す
。ノドの甲状腺にはヨウ素が、肺にはアルミニウム、骨にはストロンチウム、肝臓に
はコバルト60、生殖腺にはセシウム137……と白血病やガン、ホルモンの障害など、様々な
健康障害をまき散らす危険性がある」

放射能はどんな低い値でも安全ということはない

「長時間、少量の放射線を浴びた場合、“この程度なら安全”と判断してしまっ
たことはない、

年輪が低いほど細胞分裂が盛んなため、放射線に対する感受性が強い。細胞
に放射線が当たるとDNAに傷がつき、細胞が変異“ガン化”する恐れがある。
放射線は、どんなに低い値でも安全ということはない」と放射線の危険性を強く
訴えています。

国は幼い生命と健康を 本気で守ろうとしているのか

政府は「ただちに健康に影響はない」と年間20ミリシーベルトの基準値を押しつけていま
す。子供たちの将来をまったく考えていないあまりにいいかげんな基準です。
川さな子供を父親が、これから生かせる子供を親と、その家族が、
本当に知りたこと、それをなせ、国は真剣に示さないとはいないのか。

国民とその幼い生命と健康を本気で守ろうとしているのか。
チェルノブイリでは、25年たったいま、障害をきたした赤子の出生が、統
計していない。そして人間や自然を傷つけ破壊する原発はいくら
せん、すべての原発の廃止を強く言えませぬ。



後の祭りとは無責任な

あの日、あの時 放射能が!

2011年3月15日14時16分、三春町字亀井132番地佐久間寛宅の屋内に置いていた放
射能測定器は1時間あたり換算で9.69マイクロシーベルトを示しました。15日朝までは、平常
値よりは少し高めではあったものの1時間あたり換算で0.2マイクロシーベルト（以下1時間あ
たり換算の表記は省略します）程度で推移したが、13時21分から急上昇したもので
す。9.69マイクロシーベルトを峠に下がりはじめましたがこの日のうちに2マイクロシーベルトを下ること
はありませんでした。

この日は電話が携帯も含めて容易にはつながらない時期です。パソコンのメールは通
常状態と同じに使えていたので、東京の娘には逐一データーを送り続けましたが、地元
の兄弟にもこの高濃度放射能襲来を知らせることは不可能でした。

「表に出て大で怒鳴ったら」・・・恐ろしくて戸を開ける気にはなりませんでした。
辛うじて繋がった携帯メールで連絡した身内の一人はすでに、避難の途中でした。

この頃、私の家の庭には、ヨウ素131や、セシウム134・137が飛んできていたので
す。私のところは、意識的に戸を閉め切っていたので、ヨウ素やセシウムは殆ど室内に
入らなかつたと思います。ヨウ素やセシウムから飛び出した放射線だけがガラス戸や壁
を突き抜けて私たちが夫婦のかどを突き抜いたのです。突き抜けて行ってしまったので
す。これは外部被曝です。9.69すから、諦めて済みそうです。

この日、この時、風は南から西寄り、時に東寄り秒速0～1メートル程度と記録にありま
すが天候はうる覚えです。多分曇り後になって小雨だったかかと思えます。

この日、この頃、戸を開けていた家、外に出た人、ヨウ素やセシウムを吸い込まな
か
ったという自信は誰もいないでしょう。吸込んだとすると、これが内部被曝なんです。
体内に入ったヨウ素やセシウムは四六時中、射能を出して、周囲の細胞を締め続けるそ
うです。これはそう簡単に諦められません。

で、どうなる? どうすりゃいいんだ? も、私の知識の範囲を超えています。
判りもしないことを言って無責任な! そう、責任! 責任が無いのです。
私だってヨウ素やセシウムを一粒も取り込んで、いいという自信はありません。
私も内部被曝を調べてもらいたいです。どうした、早べられるか教えてもらいたい
です。教えてくれる人がいないと言うことまでは、私も、いいです。